

会 議 録

226
1911/11/5日 11時6分

1 会議名

平成19年度第1回北九州市文化財保護審議会

2 開催日時

平成19年11月5日(月) 13:30~17:00

3 開催場所

小倉北区役所庁舎 711 会議室

4 出席者

(委員)

山中英彦会長、豊川裕子副会長、田辺むつみ委員、田中良之委員、清水憲一委員、門司宣里委員、宮本雅明委員、錦織亮介委員、石川昭子委員、藤井厚志委員 計10名

(事務局)

陣野博文化財課長 他8名

5 議題・議事の概要

【議題】

- ・平成19年度北九州市指定文化財候補物件(黒崎城跡出土「メダイ」)について(事務局説明)
- ・旧古河鋳業若松ビルの国登録有形文化財の登録申請について(事務局説明)

【内容】

- ・「メダイ」についての報告を行った。市の指定物件候補として、今後検討していくこととなった。
- ・「旧古河鋳業若松ビル」の文化財としての価値について意見を求めた。

【報告事項】

- ① 世界文化遺産に向けた動きについて
- ② 折尾駅舎の保存に向けた検討状況について
- ③ 小倉城大門遺跡の遺構展示施設について
- ④ 蒲生石棺群の発掘調査の報告
- ⑤ 花尾城の史跡指定の要望書の受理について
- ⑥ 小倉造兵廠地下施設の発見について

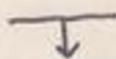
【現地視察】

- ・大門遺跡展示施設
- ・旧古河鋳業若松ビル

問い合わせ先 教育委員会生涯学習部文化財課

093-582-2389

	<p>っています。内容等で専門的な立場でご意見ありましたら出していただいて、それを反映しながら進めたいと思っております。</p>
山中会長	<p>登録文化財の申請以前に審議会に出していただいたことに感謝いたします。これからもそのようにお願いします。</p> <p>今日の議題は2つなんですが、委員の皆様をお願いしたいのですが、19年度の指定物件の候補が先ほどの「メダイ」1件です。何か他ありましたら、事務局のほうに連絡をお願いします。</p> <p>では、続いて報告物件についてです。一括して事務局をお願いします。</p>
<報告事項> (6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界文化遺産に向けた動きについて ・折尾駅舎の保存に向けた検討状況について ・小倉城大門遺跡の遺構展示施設について ・蒲生石棺群の発掘調査の報告 ・花尾城の史跡指定の要望書の受理について ・小倉造兵廠地下施設の発見について <p>(事務局より説明)</p>
山中会長	<p>何かご意見やご質問がありますでしょうか</p>
宮本委員	<p>JR折尾駅舎の保存の件ですが、建物の調査をJR九州のほうでやっているということですが、建物の価値や評価はどこでやっているのか。歴史建造物のほうでやるんですか。JRが調査して評価するんですか？所有者が…、それもおかしい話なので確認したい。</p>
文化財課長	<p>「おりお未来21協議会」の専門部会の中で、九州共立大の尾道先生が現地に入られたり、部会の中で学術的な価値というのをまとめて報告していただけていると思っています。JRについては修繕の変遷や昔の状況、物理的な調査の結果を10月末に出していただく。それをふまえて、報告を受けて部会のほうでどのような形で取り組んでいくか協議されると思っています。</p>
山中会長	<p>そのほかありませんか？</p> <p>要望書が折尾駅舎と花尾城が出ているということ、小倉城の大門については今日見学に参ります。蒲生の石棺群については、大変すばらしい遺跡で、報告にありましたように、場所を移して復元をするということです。出てる品物もすばらしいものですので、やがては報告書がでて、考古資料としてこの審議会にも出されるのではないかと思います。重要なものが出ていま</p>



	す。報告ありがとうございました。	
<お知らせ>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業考古学会についてのお知らせ（清水委員） ・現地視察の説明（事務局） 	
田辺委員	資料の中の「ねじりまんぼ」ってなんですか？	
清水委員	れんがで、ねじっているものです。 北部九州にしか残っていない構造です。	
田辺委員	れんがの構造ですか。	
文化財係長	れんがのアーチがありますよね、ここは鉄道でつかわれています。普通、アーチはれんがを横に積んでいきますが、れんがを平行ではなく、ななめにします。全国で約30くらいあり、有名なのはインクラインという南禅寺の境内にある琵琶湖疏水のもので、この1例だけが国の文化財になっています。九州では、ここと日田彦山線のけやき坂トンネルの2例だけになります。折尾の「ねじりまんぼ」はいわゆる「ねじりまんぼ」の終わりの時代のもので、主に明治の中ごろから大正にかけてつくられたのですが、折尾の「ねじりまんぼ」は最後の段階です。規模的にみると全国的に最大級の規模はあります。 西鉄の電車が走っていました。	
田辺委員	ありがとうございました。	

平成19年度第1回北九州市文化財保護審議会

と き：平成19年11月5日(月) 13:30~17:00

ところ：小倉北区役所庁舎 7階 711会議室

1 議題

- 平成19年度北九州市指定文化財候補物件について
 - ・ 黒崎城跡出土「メダイ」 資料1
- 旧古河鋳業若松ビルの登録有形文化財の登録申請について 資料2

2 報告事項

- (1) 世界文化遺産に向けた動きについて 資料3
 - (2) 折尾駅舎の保存に向けた検討状況について 資料4
 - (3) 小倉城大門遺跡の遺構展示施設について 資料5
 - (4) 蒲生石棺群の発掘調査の報告 資料6
 - (5) 花尾城の史跡指定の要望書の受理について 資料7
 - (6) 小倉造兵廠地下施設の発見について 資料8
- ※その他配布資料
- ・ 18年度の文化財指定状況

3 その他

次回開催日程について

○ 現地視察

- ・ 小倉城大門跡展示施設
- ・ 旧古河鋳業若松ビル

JR折尾駅舎の保存に向けた検討状況

1. 折尾地区総合整備事業

JR折尾駅は、本市の西部地区・学園研究都市の玄関口に位置している。鹿児島本線と筑豊本線が交叉し、市街地が複雑に分断され、幹線道路の機能が不足、家屋の密集等により防災や市街地環境の面で多くの課題を抱えていることから、鉄道の高架、道路の整備、良好な市街地の形成を一体的に行うものである。

JR折尾駅を中心に16.9haを土地区画整理事業として実施し、平成18年8月に着手し、同35年の完成予定となっている。

2. JR折尾駅の解体・保存について

折尾地区総合整備事業において、鉄道の高架化により折尾駅舎の取り壊しの方針となっており、地元では90年以上にわたり街の顔となってきた駅舎として、建物の保存の要望がなされていた。

折尾駅舎の保存等については、地元住民等で組織する「おりお未来21協議会」に設置された4つの専門部会で、住民や専門家による検討結果をふまえて意見の集約を行い、協議会に提案することとなっている。

具体的には、「折尾駅舎」の保存・活用や「ねじりまんぼ」その他歴史的建造物は、『歴史建造物部会（部会長＝尾道健二 九州共立大学教授）』において検討することとなっており、平成20年3月までに部会としての最終提案が出される。

その後、各専門部会の意見を取りまとめて、平成20年6月頃に、協議会で「折尾地区まちづくりビジョン」として決定し、公表する予定となっている。折尾駅舎については、協議会の意見を踏まえて事業の主体となる北九州市やJR九州が方針を決定する。

3. 『歴史建造物部会』の検討状況

『歴史建造物部会』は、本年5月に協議会に設置された部会の一つで、3名の専門家、6名の地元代表により構成され、部会長に尾道健二九州共立大学教授を選出し、6月から具体的な検討がはじまり、現在まで3度開催（部会は4回）されている。

- ①第1回（5月21日） 部会長の選出、検討事項の確認など
- ②第2回（6月29日） 折尾地区総合整備事業の概要説明、今後の進め方
- ③第3回（8月27日） スケジュールの説明、駅舎の変遷などの紹介、全国の駅舎保存活用事例の紹介
- ④第4回（10月9日） 駅舎の保存活用方法（内容、課題など）、全国の駅舎等の活用事例の紹介

現在、月1回のペースで部会が開催されており、今後の検討テーマは次のとおり。

- ・現駅舎の調査をJR九州が行っており、その結果を踏まえての駅舎の価値。
- ・駅舎の保存活用方策。
- ・保存後の駅舎の維持管理等のコストやその方策。
- ・ねじりまんぼ等の歴史的建造物の保存活用

4. 折尾駅舎に関する動き

(1) 折尾駅舎建物調査

- ・調査期間 平成19年6月～10月
- ・調査実施 JR九州施設部設備課（建築担当）
- ・調査内容 実測調査、構造調査、図面作成、構造模型作成 ほか

(2) 九州産業考古学会からの要望書

九州産業考古学会（会長＝木下富夫 九州産業大学教授）は、「JR折尾駅舎保存要望書」を市に提出し、駅舎を含む景観の保存を要望した。

JR
折尾
駅舎

5月21日(7)

【JR折尾駅について】

■ 折尾駅の歴史

折尾駅は、明治24年(1891)に開通した九州鉄道会社(鹿児島本線)と筑豊興業会社(筑豊本線)が交差する場所に建設された。九州の鉄道は、明治22年(1889)に博多~千歳川(久留米市)間で初めて開通し、その後、明治24年(1891)に門司駅(現門司港)まで延長された。

一方、筑豊興業は、筑豊の石炭輸送を目的に、明治24年(1891)に、若松~直方間が開通し、両鉄道が上下に交差する構造で営業を開始した。

折尾駅は、開業当初は、駅舎はそれぞれの会社ごとに建設されたため、2箇所あったが、旅客輸送の利便を図るため、明治28年(1895)に現在の場所に停車場を合接させ、日本で最初の立体交差をもつ駅として建設された。

明治30年(1897)に九州鉄道と筑豊興業は合併し九州鉄道(折尾駅)となり、明治40年(1907)に九州の鉄道は国有化された。大正3年(1913)に九州電気軌道(現西日本鉄道)が、折尾・黒崎間に電車の営業を開始し、折尾駅の旅客が増加し、駅舎が狭隘となったことから、大正5年(1915)に駅舎を建設したと考えられている。

■ 駅舎の特徴

折尾駅は、寄棟屋根と屋根窓のついた中央棟と翼部から構成され、正面右側は連絡通路のため2階建てになっている。現在の姿は、昭和61年に外壁等の大改修後のもので、建物の外形はそのままにアメリカの植民地時代を思わせるコロニアル様式になっている。

建設当時の写真は残っていないが、昭和9年に撮影された写真(建設当時の姿)では、木材を露出させ、縦向きの線を強調するものとなっていた。また、屋根窓の車輪の装飾もなく、その後の改修で取り付けられた。

内部のレイアウトは、当初と大きく変化しており、当時の姿を彷彿することはできないが、コンコースにある2本の円柱とそれにつながるベンチは、駅舎の歴史を伝える魅力のポイントとなっている。

折尾地区総合整備事業概要

1 折尾地区の現況

北九州市西部に位置する折尾地区は、隣接する遠賀・中間地域を含めた行政の中心地及び教育の街として発展してきたが、折尾駅周辺では、鉄道が市街地を分断し、交通渋滞の原因になっており、また、道路などの基盤整備を阻害し、密集住宅地区の改善や土地利用の高度化を困難にしている状況にある。

2 事業の必要性

鉄道による地域分断の解消、交通の円滑化及び交通結節機能の強化及び駅南側の住環境の改善を図り、質の高い都市空間を形成し、学園都市の魅力ある玄関口及び隣接する遠賀・中間地域を含めた地域中心核として再構築するため、連続立体交差事業、街路事業及び区画整理事業の3事業を一体的に実施する、折尾地区総合整備事業を計画した。

3 事業の概要（全体事業費：約830億円、期間：平成16年度～平成34年度）

■連続立体交差事業

- 事業期間：平成16年度～平成31年度予定
- 事業延長：L=4.5Km〔JR筑豊本線=2.4Km JR鹿児島本線=2.1Km〕
- 事業費：約350億円（内約35億円はJR九州負担）
- 事業認可：平成17年3月 全区域の事業認可を取得
- 現在の状況：西折尾地区のトンネル区間を工事中であり、現在、掘削（開削）を終え、トンネルの築造工事を行っている。

■幹線道路、補助幹線道路の整備

- 事業期間：平成16年度～平成26年度予定（事業認可区間）
- 事業延長：幹線道路 L=約2.3Km 北口駅前広場 A=約1.0ha
補助幹線道路 L=約2.7Km、歩行者専用道路 L=約0.3Km
関連側道 L=約1.9Km、取付道路 L=約0.9Km
- 事業費：約280億円
- 事業認可：平成17年2月 日吉台光明線（北口駅前広場含む）、乙丸折尾線、折尾中間線及び折尾南北線の一部区間の事業認可を取得
：平成17年12月 日吉台光明線の一部区間（折尾隣道工区）の事業認可を取得
- 現在の状況：北口駅前広場を中心に、用地買収及び家屋移転補償を行っている。

■土地区画整理事業

- 事業主体：北九州市
- 事業期間：平成18年度～平成34年度（清算期間除く）予定
- 事業区域：A=16.9ha（幹線道路 L=約1.0Km 南口駅前広場 A=約0.8ha）
- 事業費：約200億円
- 事業認可：平成18年12月に事業計画を決定し、事業に着手した。
- 現在の状況：今後、平成21年度までの3カ年で減価買収を実施していく予定。